

平成 24 年度（財）電源地域振興センター研修事業
「多様な主体が活躍する協働によるまちづくり」参加報告

研修の目的

近年の社会環境の変化や、地域における多様化かつ複雑化した諸課題に対する確に
対応していくためには、同じ地域に住む様々な主体（住民・団体・行政）が対等かつ
自立した立場で、それぞれの特性や持ち味を活かし、協働により解決を図っていくこ
とが必要である。本研修は、地域の多様な主体が活躍する協働によるまちづくりにつ
いて、講義や事例などからそのポイントを学ぶ。

日程 平成 24 年 8 月 30 日（木）～8 月 31 日（金）
場所 宮城県仙台市

事例報告

1 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島の取り組み

(1) 静岡県三島市について

三島市（みしまし）は、静岡県東部の、伊豆半島の中北端に位置する人口
約 113,000 人の市。

三嶋大社の門前町として栄え、江戸時代には東海道三島宿の宿場町となり、
箱根峠越えの前後の休息地として賑わった。また、市内各地では楽寿園を中
心に各地に湧水が見られ、農業用水・生活用水として活用されていた。現在
は国土交通省選定の水の郷百選にも選ばれている。

(2) 源兵衛川の荒廃と再生

「水の都」と呼ばれた三島市は、1960 年代、多くの工場・事業所の建設な
ど産業活動の活発化に伴う地下水の汲み上げによって湧水が減少し、市内を
流れる川は汚れ、ドブ川となってしまった。

【豊富な湧水量の源兵衛川】



【水が枯れゴミが散乱した流れの無いドブ川】



このふるさとの環境悪化に問題意識をもった市民や団体によりグラウンドワーク三島が発足、現在では、20の市民団体が参加し、市民・NPO・企業・行政のパートナーシップによる環境改善活動を実践している。これまでに、源兵衛川の再生をはじめ、絶滅した水中花ミシマバイカモの復活、住民参加による遊水池の整備、歴史的な井戸や遊休農地、放置竹林の再生、「グラウンドワーク・インターンシップ」による人材育成など、53カ所以上のプロジェクトが高く評価され、朝日新聞社「第7回明日への環境賞」、フジサンケイグループ「第18回地球環境大賞〈環境地域貢献賞〉」、毎日新聞社「第16回日韓国際環境賞」、共同通信社「第1回地域再生大賞〈大賞〉」を受賞した。

【生活のなかに清流が戻り賑わいを創出】



(3) グラウンドワークとは

1980年代に財政破綻に苦しむイギリスの農村地域で始まった「パートナーシップによる地域での実践的な環境改善活動」

地域を構成する住民、企業、行政の三者が協力して専門組織（グラウンドワーク・トラスト）を作り、身近な環境を見直し、自らが汗を流して地域の環境を改善していくもの。

(4) グラウンドワークの3つのキーワード

◆ 対立からパートナーシップへ

どちらかといえば円滑な関係になかった住民・企業・行政がパートナーシップを組む事により協力関係が出来上がれば地域の諸問題解決が迅速に進む。

◆ 行政依存から住民アクションへ

無関心と行政依存の地域づくりから、住民自らが計画し、行政や企業と共に地域づくりを行うことが求められている。

◆ 保護から環境マネジメントへ

保護や維持だけではなく、失われつつある環境の回復や向上のための、水環境や地域環境の改善、環境教育など地域が一体となった環境マネジメントこそがグラウンドワークの基本理念。

(5) グラウンドワーク活動により期待される効果

◆ コミュニティ再生

住民が、放棄された土地や荒廃した公共空間を、ミニ公園、コミュニティガーデン、レクリエーション施設、自然保護地域など、地域社会の価値ある資産に変える活動の支援。

◆ 土地再開発

自治体の関係当局および民間企業と協力して、住民が、荒廃した土地の復元活動に参加し、こうした土地を地域社会のために再利用することについての合意形成。

◆ 雇用促進

様々な環境改善活動によって、失業者や女性・高齢者・障害者の職業訓練・就業機会・ボランティア参加機会等の創出。

◆ 教育

学校と協力して、地域の環境改善活動に学校や生徒たちが参加する課外活動を提供。不登校・引きこもりの児童生徒の社会との接点も提供でき、生徒がスタッフとして参加することによる地域リーダーの育成。

◆ 企業活性

企業と協力して、その敷地を改善し、環境活動を向上させ、地域社会に貢献するボランティアに参加してもらうよう促す。企業にとっては、地域でのイメージ向上や、新製品のマーケティングの機会となる。

◆ 都市農山漁村交流

組織のネットワークを活用した環境改善活動をとおして、都市と農山漁村の双方向で行き交う交流の促進を図る。様々な地域の人、モノ、情報を結び、より広範な相互交流活動を実現。

(6) 講義から

- ・ グラウンドワーク三島の活動は、地域に密着して全て合意を得られるまで話し合いを重ね、地域住民の全員を当事者として巻き込むことにより、地域に入って合理的に事業が行えた。その結果として地域住民の心を変えることができ、地域住民の自立の確立が図れ、行政依存からの乖離・離別をもたらした。
- ・ 協働にはパートナーである地域住民の真意・本音、要望していることをどれだけ正確に把握しているか、把握できるかが重要。本当に必要ならば自分たちで何か始めているはず、何か考えているはず。これを生かすことで主体的な活動になる。
- ・ 行政は、制度をつくる前に戦略的な政策のアプローチが必要。地域活動が継続する仕組みを考えて支援すること。
- ・ 地域住民が主役となり自立して地域を運営していかれるように行政はコーディネーター役として手配、演出をする。
- ・ 協働は、市民と行政だけでなく企業を含めることでより活発になり、企業との利益関係が見えてくることで、双方に自主的な動きが生まれる。これにより自分達がリスクを負い、リターンを追及するようになれば活動が広がっていく。
- ・ 愛郷心を育てること、昔は良かったという言葉、ふるさとの原風景を利用する。各々の記憶のなかに完成モデルがあるので、懐かしいふるさとの姿に戻すということが一番効率が良い。ふるさとに対して心に引っかかりを残さないと子ども達は残らない。

2 NPO 法人フェアトレード東北の取り組みから

- ・ 大勢の人目につきにくいところ、行政の目や手の届かないところにこそニーズがある。
- ・ 将来を真剣に見据えた計画性のある活動が必要。
- ・ 被災地では、「これからもここで生きていくための行動・アイデア」が住民・企業・行政が協力し生まれ進められている。

3 静岡県 交通基盤部 農地保全課の行政報告

- ・ 平成 18 年度から取り組む「一社一村運動」の報告

復興ingみやぎ

with NPO



NPOの活動紹介

支援は「場所」ではなく「人」へ／NPO 法人フェアトレード東北

石巻市は、10月11日に、全避難所を閉鎖しました。発災後、救援物資を届けたり、炊き出しをしてきた活動は、これまでに仮設住宅に移った人々の生活支援に変わってきています。しかし、被災して困っているのは仮設住宅にいる方々だけではありません。石巻では、津波で1階に津波が押し寄せても2階で何とか過ごしていた在宅避難者も大勢いました。その在宅避難者を物心共に支援してきた団体の1つが、フェアトレード東北です。

石巻市を中心に社会的弱者といわれるニート、引きこもり、精神障がい者などの支援をしてきたフェアトレード東北は、年齢・性別・障害の有無にとらわれず、就労の場と生活の場となるソーシャルファーム（注1）として、利用者が実際に稲作をしてお米を生産し、「ニート米」の名称でウェルフェアトレード商品（注2）として販売するなどの活動をしています。

日の当たらない災害弱者の支援を

東日本大震災直後から支援活動を始めたフェアトレード東北ですが、石巻市蛇田にある事務所は浸水し、理事長の布施龍一さんの自宅も車も被災しました。それでも、利用者やスタッフの安否を確認するため、腰まで海水につかりながらも必死に歩きました。そして、救援物資が届いていない避難所や限界集落へ物資の提供や炊き出しをしていきました。その後は、石巻市内の牡鹿半島や渡波地区を中心に孤立した独居高齢者や在宅避難者、障がい者に対してニーズ調査をしながら必要なものを届け、直接支援をしてきました。在宅避難者で特に1人暮らしの方や体が不自由な方は、あまり外出しないため物資の提供も受けていません。そこで定期的に訪問し、場合によっては物資の提供をし、見守りをしています。その中で、医師や介護福祉士など専門的な支援が必要な場合は、連携する団体に引き継いでいく仕組みを作っています。

この見守り訪問の「在宅高齢者等支援事業」は、国の緊急雇用対策事業として石巻市から委託されています。

顔と顔を合わせた支援

在宅避難者の訪問調査は根気と労力がある地道な活動ですが、結果として助かった方や救われた方たちが大勢います。「支援は場所にはではなく、人に行うもの。大量の物資よりも必要な人に必要な物資を届けています。」と布施さん。顔と顔を合わせ続けた支援。地元の団体だからこそできる活動です。





震災から 200 日。休まず支援を続けてきたフェアトレード東北のスタッフも相当疲れがたまっています。それでも、在宅避難者の方に感謝され、「また来てね。」と言われることでスタッフの疲れも癒え、継続して支援を続けています。

事務所の 1 階には全国からの支援物資がたくさん置かれており、2 階ではボランティアや被災したスタッフと共に、布施さんも一緒に寝泊りしています。しかし、支援をする為のお金も人もまだまだ不足しています。

震災で石巻市内の保育園も半減し、子どもを預けたいというニーズが出てきたため、フェアトレ

ード東北は、この春、託児所オレンジをオープンする予定です。

「親のストレス軽減が子どもに良い影響を与える為、土日でも子どもを預けることができる託児所を作り支援していきます。」と布施さん。でも被災者の自立を最終目標に震災対応で行う託児所の運営は、開始から 3 年～4 年を目途に閉鎖する予定です。

被災して困っている多くの人の生活を支えているフェアトレード東北は、これからも継続的に、「人」への支援をしていきます。

NPO 法人フェアトレード東北 理事長 布施龍一



(注1) ソーシャルファームとは、障がい者あるいは労働市場で不利な立場にある人々のために、仕事を生み出し、また支援付き雇用の機会を提供することに焦点をおいたビジネス。

(注2) 「WelfareTrade (ウェルフェアトレード)」とは、「Welfare = 社会福祉」と「FairTrade = 公正な取引」を掛け合わせた造語で、社会的に弱い立場の人たちがつくる国内の製品やサービスを、適正な価格で購入・利用することによって、当事者の人たちが、働く喜びと生きがいを持ち、自立できることを支援する仕組み



一社一村運動とは

企業と農村が協働活動することで静岡の農山村地域の活性化を図る運動です。

一社一村しずおか運動の背景

～地域活性化対策として高まる期待～

過疎化・高齢化による担い手不足などで農地荒廃や集落機能の低下が進む農山村地域。こうした農山村地域において、都市と農村の交流人口の増加により活性化をはかろうと、静岡県は2005年、日本で初めての試みとして「一社一村しずおか運動」の取り組みを始めました。この運動のモデルとなっているのは、2004年から韓国が国を挙げて実施している「農村愛一社一村運動」で、既に1万組以上の締結がなされ、農村地域の活性化対策として注目を集めています。

一社一村しずおか運動の目的

～めざせ！企業と農村の協働による地域の活性化～

一社一村運動の目的は協働活動による地域の活性化。農村の要望である「人手がほしい」「交流を増やしたい」「安定した顧客がほしい」「一緒に特産品を開発したい」と、企業の要望である「社会貢献をしたい」「社員の福利厚生に活用したい」「地域の資源をビジネス化したい」のニーズを結びつけ、協働活動を行うことで、都市と農村の交流が生まれ、地域の活性化を促進するという仕組みです。



企業と農村の協働活動とは

～双方にメリットのある継続性のある企画～

企業と農村の協働活動とは、具体的には、耕作放棄地の復元、農地オーナー制への参加、農村観光ビジネスでの提携などの活動です。農村は活動のフィールドや地域資源を企業に提供し、企業は人材やアイデア、ネットワークを農村に提供するというものです。

企業から農村への一方的な物質的支援ではなく、また、一過性のイベントではなく、継続的に、企業に勤め

る人と農村に住む人との交流によって、新たな可能性を生み出すことができる活動を目指しています。

「一社一村しずおか運動」の認定制度

～農村と企業との協働の取り組みを目指しましょう～

「一社一村しずおか運動」の認定基準は以下の3点です。

1. 農山村と企業がそれぞれの資源、人材、ネットワーク等を生かし、双方にメリットのある協働活動を目指すものであること。
2. 地域活性化に向けた活動であること。
3. 活動が継続して行われる見込みがあること(3年間)

今後の展開

～積極的 PR で参加農村と企業を募集！～

この運動に多くの農村と企業が参加することによって、農村地域の自然環境保全や農業振興に寄与するだけでなく、過疎化・高齢化が進み、疲弊している農村地域の活性化や経済発展が期待できます。静岡県では参加農村と企業を募るため、企業や農村へ一社一村運動を積極的に PR するセミナーやシンポジウムの開催などを行っていきます。

また、本ホームページやメディアを通じて、企業や農村のみなさんから寄せられる最新の情報を配信したり、この運動の趣旨に賛同していただき、実際に活動していただいた取り組みの PR も積極的に行い、一社一村運動の活動を支援します。

平成 22 年度は、取り組みを希望する農山村の調査を行い、農山村の情報を追加しました。

平成 23 年度は、さらなる取り組みの拡大に向けて、アンケートを実施し、「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」を進めることとしています。



活動事例 No1～3

アストラゼネカ株式会社と松崎町石部地区、浜松市天竜区大栗安地区の取り組み

アストラゼネカ株式会社が県内3箇所の棚田で保全活動を行いました！

大手医薬品メーカーのアストラゼネカ株式会社は、平成 18 年度より「高齢化する村を応援するプロジェクト」と題して、全国各地の農村に全社員が赴き、農作業や環境保全のお手伝いをする活動に取り組んでいます。この活動は、静岡県が推進する「一社一村しずおか運動」にも認定されています。

今年は、10月7日(火曜日)に全国 55 箇所の農村で活動を実施。県内でも3年連続で松崎町石部地区、菊川市上倉沢地区、浜松市天竜区大栗安地区の3箇所において保全活動を実施しました。アシや雑草が生い茂っているところを鎌で刈り、肥料となる刈り草をまとめる作業や、土をスコップで掘り起こして畔をつくり、復田する作業などを行いました。

また、お昼休憩後に今年の田植えの時の航空写真を見た社員からは、「自分たちが復田したところがあるとやりがいがある」との感想が聞かれました。



鎌で畔を刈る作業



重労働の復田作業

アストラゼネカ株式会社が、全国一斉に社会貢献活動を実施

平成 18 年 11 月 1 日、世界最大級の製薬会社アストラゼネカの社員が、一社一村しずおか運動と社会貢献活動の一環として、「高齢化する村を応援するプロジェクト」と題し、県下 3 地区の棚田を会場に、地域のニーズに応じた農作業や環境整備作業などを行いました。

普段自然に触れることの少ない社員にとっては、リフレッシュの場、地域の方や社員同士の交流を深める機会となり、楽しみながら活動に取り組んでいました。松崎町の石部地区には加藤社長も参加し、「地域に貢献でき、社員も学べる。今後も継続していきたい。」と汗を流しました。



一社一村 しずおおか運動



村：農山村集落 社：企業や大学、郡市部のNPO法人

農山村と企業の パートナーシップによる 地域活性化

農業者の減少・高齢化、農山村の過疎化・混住化などにより、集落機能が低下し、農地や農業用水など資源の保全が困難になってきています。一方、企業が果たす社会的責任（CSR）として環境改善や地域社会への貢献に関心の高い企業が増えてきています。

こうした状況を踏まえ、農山村と企業が対等な関係のパートナーシップを組み、それぞれの資源、人材、ネットワーク等を生かした双方にメリットのある協働活動の実現を目指し、県が農山村と企業の要望をコーディネートしています。



大井町市立農業体験センター、農業体験場

認定状況

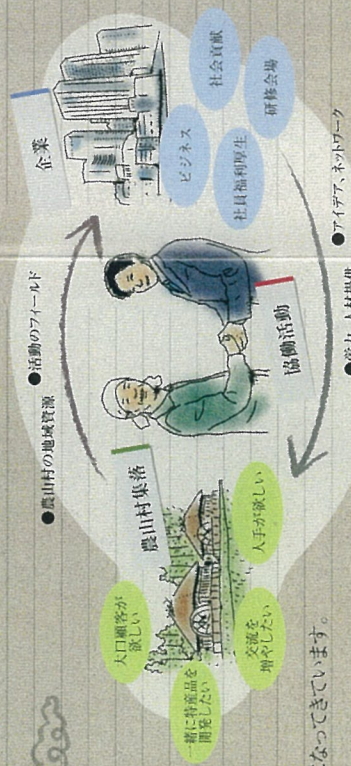
平成27年度7月現在

地域活性化特産品開発・地域振興の促進、人材支援
A.I.D.M.A
 アイドウ企業株式会社
 農事組合法人伊豆月ヶ瀬梅組合
 (伊豆市)

地域活性化特産品開発・地域振興の促進、人材支援
日本大学
 NIPPON UNIVERSITY
 農事組合法人伊豆月ヶ瀬梅組合
 (伊豆市)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)



サマザ



地域活性化特産品開発・地域振興の促進、人材支援
A.I.D.M.A
 アイドウ企業株式会社
 農事組合法人伊豆月ヶ瀬梅組合
 (伊豆市)

地域活性化特産品開発・地域振興の促進、人材支援
日本大学
 NIPPON UNIVERSITY
 農事組合法人伊豆月ヶ瀬梅組合
 (伊豆市)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、地域貢献
POKKA P
 ポッカ コーポレーション
 敷地村ふるさと交流倶楽部
 (磐田市)

里山保全、地域貢献
不二総合
 エンターテインメント株式会社
 久留女木柵田の会
 (浜松市北区)

里山保全、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
富士通株式会社
 松崎小売酒販組合
 石部地区棚田保全推進委員会
 (松崎町)

里山保全、農作業、地域貢献
ICOM
 株式会社ICOM
 高柳美野里会
 (藤枝市)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
WEB-S
 株式会社ウェブサクス
 NPO法人 せんがまち棚田倶楽部
 (鶴岡市)

里山保全、農作業、地域貢献
ナカダ産業株式会社
 NPO法人 森づり山根・NPO
 (高田市)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
8あせ八
 石部地区棚田保全推進委員会
 (松崎町)

里山保全、農作業、地域貢献
ナカダ産業株式会社
 NPO法人 森づり山根・NPO
 (高田市)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
アストラゼネカ株式会社
 石部地区棚田保全推進委員会 (松崎町)
 大栗安部田倶楽部 (浜松市天竜区)

里山保全、農作業、地域貢献
静甲株式会社
 NPO法人 フロンティア清沢
 (静岡市葵区)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
meiji
 株式会社明治 東海工場
 葉梨山水会 (藤枝市)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
社会福祉法人
 ハルモニア
 農事組合法人いづくみ
 (高田市)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
アストラゼネカ株式会社
 石部地区棚田保全推進委員会
 (松崎町)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
8あせ八
 石部地区棚田保全推進委員会
 (松崎町)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

里山保全、農作業、地域貢献
株式会社選鉄トラベル
 NPO法人 大好き波川
 (浜松市北区)

みしまっ歩

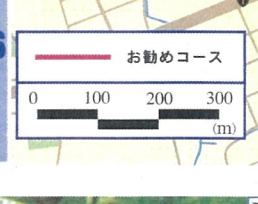
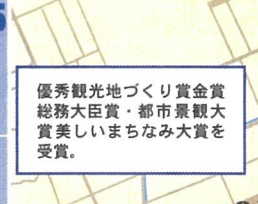
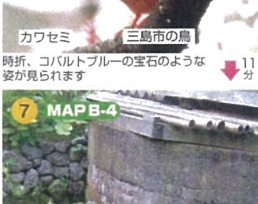
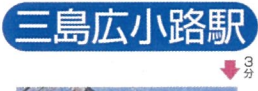


JR三島駅南口を降りて約5分歩くと、市街地に湧水とホテルが見られる三島。このような街が他にあるのでしょうか。多くの文人が好み、作品の題材にもなった三島。住んでいる私たちにも、訪れる皆様にも「心地よいまち」になるように、市民・企業・行政が協働で環境整備を行ないました。なぜか、ホッとすまみち「三島」をごゆっくりお楽しみください。

散策ルート所要時間 5km 約2時間

解=裏面の解説文をご覧ください

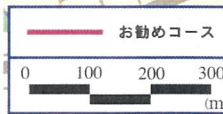
2012.3.1発行



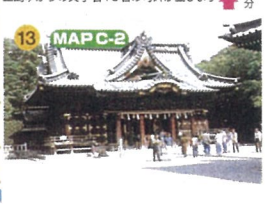
三島駅南口



優秀観光地づくり賞金賞 総務大臣賞・都市景観大賞 美しいまちなみ大賞を受賞。



三島市全域 歩行喫煙禁止



三島商工会議所編
静岡県三島市一番町2-29
TEL055-975-4441 FAX055-972-2010
<http://www.mishima-cci.or.jp> info@mishima-cci.or.jp
協力：三島市

散策ポイント解説

自然環境ポイント

解①カワセミ

くちばしが長く、背中のブルーと胸・腹のだいたい色の対比が美しい。
早春の頃、雄が雌に魚を渡し、求愛する姿が見られる。現在、都市化と共に餌場をなくし、川から姿を消しつつある。

解②ホタル

昔、源兵衛川の流域には多くのゲンジボタルが見られた。しかし、湧水の減少により水量の減った源兵衛川から姿を消してしまった。
平成4年、地元企業による冷却水の供給により、翌年には放流した幼虫が羽化し、ホタルが復活した。その後、餌の放流、川の管理・清掃により、5月初旬にはゲンジボタルの舞が見られる珍しい川になった。
現在、源兵衛川のゲンジボタルは日本で1、2を争う早い時期の発生が特徴である。

解③ミシマバイカモ

水の汚染に非常に敏感で、きれいな冷たい水の中でしか育たない。花の咲く時期は5~9月頃だが、場所によっては一年中咲いている。
三島自生のもはすでに絶滅し、現在あるミシマバイカモは柿田川で保護育成されたものを移植したものである。

解④金木犀（三嶋大社 国指定天然記念物）

樹齢1,200年と伝わる日本一の大木である。9月上旬と9月下旬~10月上旬にかけて2回薄黄色の小花を全枝につけ、その芳香は2里に及ぶといわれている。

解⑤白滝公園

大きな樺の木々があり、心地好い木陰を作っている。足元には溶岩が露出し、あちこちに富士山の雪解け水が湧き出し、少し離れた菰池からの湧水と合流し、桜川となっている。

かつてここは三島の一大湧水池で、湧き上がる水量が多く滝のように流れ落ちることから「白滝」と呼ばれたのが名前の由来である。

解⑥蓮沼川（宮さんの川）〈源流：楽寿園の小浜池 全長1km〉

楽寿園に小松宮別邸があったことから「宮さんの川」と呼ばれている。一時、湧水の枯渇で川が汚れてしまったが、地域の有志が三島市と交渉し、東三島工場から冷却水を流してもらうことになり、現在のようなきれいな川になった。
この地域の人々の活動は「宮さんの川を守る会」として定着し、奉仕活動で川を清掃し、花壇を設置するなどして四季折々の花を咲かせている。

解⑦源兵衛川（源流：楽寿園の小浜池 全長1.5km）

川の名称は工事に深く関わった寺尾源兵衛に由来する。
豊富だった水量は都市化と共に激減し、川の汚染もひどくなった。平成2年、「源兵衛川親水公園事業」の指定を受け流域が整備された。水も冷却水を流し、現在は美しい水辺環境が取り戻されている。
また、市民により「源兵衛川を愛する会」が結成され、河川清掃やホタルの幼虫放流などの活動を通して親水公園は維持されている。

解⑧桜川（水辺の文学碑横）〈源流：菰池公園・白滝公園〉

三嶋大社脇を通り抜け、さらに南へと流れている。白滝公園から三嶋大社にかけての「水上通り」は歩道も美しく整備されている。
また、「水辺の文学碑」として、太宰治や若山牧水など、三島ゆかりの文学者10名の句碑も並び、文学散歩も楽しめる。

解⑨御殿川

白滝公園付近の水門で桜川から分流するが、この水門は水量が多く、激しく「ドンドン」と流れ落ちることから「ドンドン淵」と呼ばれている。

解⑩四ノ宮川

名前の由来は伊豆四ノ宮広瀬神社からと伝えられる、楽寿園小浜池から流下する自然河川である。
暗渠になっていた川を平成16年に整備し、自噴している湧水を四ノ宮川に流すことで、憩いの場へと変化させた。

解⑪菰池公園

公園内の菰池の湧水は桜川の水源となっている。名前の由来は、昔、真菰という植物が群生していたことから名付けられたといわれている。

解⑫中郷温水池（三島市眺望地点）

中郷温水池は、美しい富士山が眺められることから平成14年に三島市の眺望地点に指定しました。三島市では、この他8地点（末広山・山中城跡・施行平・向山古墳群・新町橋・新城橋ほか）を同じく眺望地点として指定しています。

歴史ポイント

解⑬三嶋曆・三島茶碗（三嶋曆師の館）

関東方面の地方曆の中で最も古く、国内でもいち早く木版による印刷曆として出版され、技術も優秀であった。河合家の伝承では宝亀年間（770年~780年）に、祖先が山城国賀茂より三嶋明神を親請して豆州三島に下り、その子孫の河合氏が代々曆を版行してきたという。

三島茶碗の呼称の由来の一つに三嶋曆がある。室町時代末期から桃山時代の茶会記には「三島」、「こゆみ（曆）」と記されている。これは佐茶を創造しようとする茶人達が朝鮮半島よりもたらされた陶器を愛用し、その象嵌模様（ゾクザンモヨウ）が三嶋曆の仮名文字に似ていたことから「三嶋手」、「曆手」と名付けられたといわれている。

解⑭孝行犬の墓（圓明寺）

幕末の頃、番犬として母子6匹の犬が寺を守っていた。一匹の子犬が病気で死んだ後、母犬も病気になるってしまったが、子犬たちはそばを離れなかった。町の人々から食べ物を貰っても食わずに持ち帰り、母犬に与えた。母犬が死んでも子犬たちは屍を守ったが、ついには子犬たちも死んでしまった。

寺の日空上人がそれを見て母子6匹のために石碑を建て、人にも勝るその純情を表彰して世の中の人に誠めとした。

解⑮大興寺跡（市ヶ原廃寺址）

白鳳時代、三嶋大社に関係深い丈部富賀満の私寺として建立された。平安時代（836年）に国分尼寺焼失後、この寺は代用国分尼寺となった。その規模は市内法華寺附近から北方の祐泉寺・三嶋大社前の旧国道1号にまで延びた広範囲な地域で、薬師寺式伽藍配置の寺院址となる。

また、祐泉寺境内には当時の西塔の礎石が残っている。

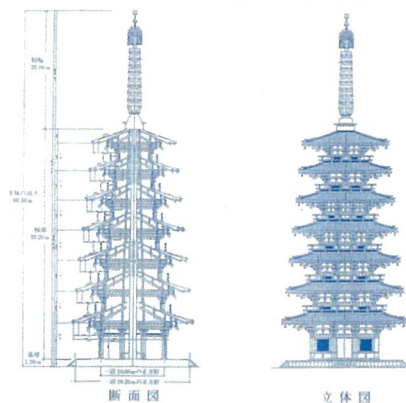
解⑯国分寺塔礎石

741年の聖武天皇の勅命により創建された2町（約214m）四方を寺域とする大伽藍の遺蹟である。現存する8個の石は七重の塔の礎石の一部で、その北半分のものである。塔の高さは60m程あったと想像される。

三島八小路

江戸時代に東海道、甲州街道、下田街道等の大路に対して、愛称をつけて呼ばれた小路。当時この八小路の名前をすらすら言えれば三島人の証明として関所を手形なしで通れたという逸話もある。

三島八小路：阿闍梨小路 桜小路 上の小路 下の小路
金谷小路 細小路 竹林寺小路 菅小路



上野国分寺七重塔復元設計図

（第一層の柱間等が一致することから伊豆国分寺と同規格と想像される）